アフリカ・ウイークス学生企画代表インタビュー

アフリカとつながる第1歩に

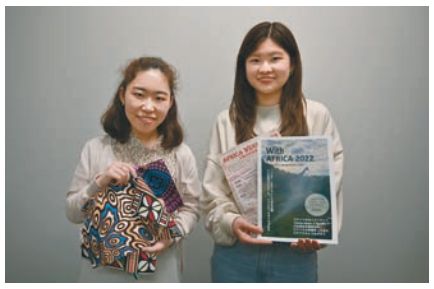
学生有志が多彩な企画を実施

1面に掲載のアフリカ・ウイークスでは、公募で集まった有志学生の運営で、さまざまな企画が実施された。代表の田村璃子さん（総グ3）と並木舞子さん（同）に話を聞いた。

▼運営に携わったきっかけは

（田村）高校生の頃にアフリカ・ウイークスに参加しアフリカに興味を持ち始め、上智大学で学ぶ今があります。アフリカを知るきっかけの第1歩となる機会を創出したいと思ったからです。

（並木）講義を通じてアフリカに興味を持ち、勉強していく中で、知識のインプットだけでなく自ら行動を起こして自身が得た知見を広める活動がしたいと思いました。



アフリカ布と雑誌を手に田村さん(左)と並木さん

▼今回の企画でこだわったポイントは

（田村）私が担当したトーク企画では、日本からリアルなアフリカを知り感じてもらうことにこだわりました。現地の方々との交流に加え、アフリカに関わる方へのインタビューを企画し、日本からつながる機会を提供することにも挑戦しました。

（並木）私は雑誌企画を担当。アフリカの日常と日本のつながりや比較を重視しました。アフリカ雑貨屋さんに足を運んだり、アフリカ料理を実際に作ってみたり、運営学生自らがアフリカに「つながりに行く」積極的な姿勢を意識しました。

▼この経験を踏まえての将来の夢や目標は

（田村）まずは、実際にアフリカに渡航して学んだことを自分の目で確かめると共に、新しい学びを得たい。将来は教育という専門性を持って、私自身がアフリカに「つながる」存在として発信できるようになりたいです。

（並木）アフリカの渡航歴がないので、やはり渡航して実際に現地の様子を目にしたい。大学在学中に、特に興味のある南アフリカに行くことが今の夢です。将来はアフリカに限らず、日本とどこかを「つなぐ」仕事ができたらと思っています。

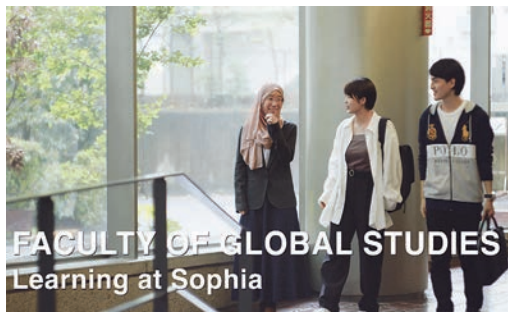
学部紹介動画シリーズ

Learning at Sophia

全学部の動画が完成、公開に

学生や教員が、所属学部の魅力や学びを語る動画シリーズ「Learning at Sophia」が完成し、大学公式YouTubeチャンネルで、全学部の動画が公開されている。

この動画シリーズは、主に受験生を対象に、大学選びの参考にしてもらうことを目的として制作された。各学部の学びの特徴に触れながら、在学中にどのように成長できるのかイメージを膨らませるような構成。



64人の出演者が語る学部の魅力

制作にあたっては、延べ64人の教員や学生それぞれに各1時間程度のインタビューを行った。そこで抽出された学部の特色を示すキーワードに基づいて、出演者が切り替わりながら登場するオムニバス形式の構成となっている。説明的な要素を一切省き、出演者の言葉に重きをおいて編集。教員は学生の様子や各学部での学びの特徴、研究の面白さについて、学生は入学後の成長や、学部での学びを経て見つけた将来の夢などについて語っている。

制作を担当した広報グループは「約70時間にも迫るインタビューから、各学部の魅力を凝縮した内容で再構成した動画です。受験生の方はもちろん、在学生や保証人の皆様にもぜひご覧いただき、各学部での学びについて理解を深めるきっかけとなれば」と話している。

駐日インド大使講演会

日印国交70周年記念企画

5月10日、2号館国際会議場にてサンジェイ・クマール・ヴァルマ駐日インド大使による講演会が開催された。

この講演会は、インド独立75周年および日印国交樹立70周年を記念して企画された。冒頭、曄道佳明学長および佐久間勤理事長が挨拶したほか、経済学部長の網倉久永教授が、日本とインドの経済的協力の実績などについて紹介した。

日印協働の重要性を語るヴァルマ大使

東南アジア、ヨーロッパ、アフリカなど世界中の国々において長年にわたり、外交活動に携わってきたヴァルマ大使は、講演に先立ち、「活気あふれる若者たちこそが、民主主義を推進していく上で最も力強い存在である」と学生たちに語りかけた。そして独立後のインドの経済発展を振り返りながら、日本からの経済的および技術的サポートが欠かせないものであったと感謝の意を示した。

力強い成長を続ける同国の経済状況について、大使はコロナ禍においてもGDPが8%以上もの伸びを見せたことに言及。スタートアップ企業の国際的躍進など、ビジネスの現場の状況についても分かりやすく解説した。また、同国では女性の社会進出が加速化していると述べ、IT関連企業の就労者の約5割を女性が占めることや、女性の理工系分野の就学率が世界トップであることを紹介した。

大使は先日行われた日印首脳会談の成果にも触れ、「世界における外交関係は、公益を追求するための戦略的パートナーシップにシフトしている」と述べて今後も日印が協働していく重要性を強く訴えた。

来場者との質疑応答が行われた後、竹本ジュリアさん（経済2）からヴァルマ大使に花束が贈呈された。

講演会には同国出身の留学生も多数参加し、大使を囲んで歓談するなど、終始和やかな雰囲気のうちに閉会した。外交のスペシャリストとして豊かな経験を持つヴァルマ大使から、経済そして歴史の観点から日印の関係性を直に学ぶ貴重な機会となった。

新ウェブサイトが公開

SDGs&サステナビリティ

本学の取組みを発信

本学のSDGsに関する取組みの情報を集約して発信する目的で、新ウェブサイト「上智大学SDGs&サステナビリティ」が公開された。

同サイトでは、本学の取組事例や教員をSDGsの17目標から絞り込んで検索できるほか、関連イベントの告知なども行っている。

サステナビリティ推進本部のメンバーで、同サイト立ち上げに関わった相生芳晴IR推進室長はサイト設立の背景として、「国内外を問わず若年層のSDGsへの関心が高まってきたことで、多岐にわたる本学の取組情報を、これまで以上に分かりやすく発信する必要が出てきた」と話す。

さらに、社会連携の際に、大学側のESG（Environment, Social, Governanceの頭文字で、組織・機関の長期的成長に重要な3つの観点）への取組みが重要視されるなど、外部環境の変化に合わせて情報発信の在り方の見直しが必要だと感じていたという。

同氏は、「本学のカトリック・イエズス会大学としての役割や、国連との連携などを中心に、本学の特徴を分かりやすく多様なステークホルダーに伝えるコミュニケーションツールとして活用していきたい」と話している。

新ウェブサイトはこちらから。

受賞・採択

学生

■電気学会電気学術奨励賞（受賞日：3月28日）

倉邉海史（理工学専攻電気・電子工学領域博前1）

■電気学会電気学術女性活動奨励賞（受賞日：3月28日）

豊島理彩（理工学専攻電気・電子工学領域博前1）

■世界人権宣言大阪連絡会議主催みんなの人権・映像フェスティバル大賞（受賞日：3月18日）

小塩巴菜（文新3）

江上らな（文新3）

■同フェスティバル優秀賞（受賞日：3月18日）

古屋蓮（文新3）

教員

■スポーツデータ解析コンペティション奨励賞（受賞日：1月28日）

菅野吏紗（文新4）

山下遥助教（情報理工学科）

■宇宙航空研究開発機構国際宇宙ステーション『きぼう』利用高品質タンパク質結晶生成実験基盤研究利用制度採択（採択日：3月3日）

近藤次郎准教授（物質生命理工学科）

■軽金属奨学会教育研究資金採択（採択日：3月17日）

久森紀之教授（機能創造理工学科）

■池谷科学技術振興財団単年度研究助成（採択日：4月1日）

臼杵豊展教授（物質生命理工学科）

■福岡直彦記念財団研究助成および長瀬科学技術振興財団研究助成（両採択日：4月1日）

鈴木由美子教授（物質生命理工学科）

第12回上智大学全国高校生英語弁論大会「ジョン・ニッセル杯」開催

高校生のための英語弁論大会「ジョン・ニッセル杯」の2022年度大会が、下記のとおり開催されます。この大会は、英語で発表することを通じて、英語力の向上を図るとともに、高校生たちが将来世界を舞台に活躍する人材として成長するきっかけを掴んでもらいたいという想いから創設されました。上位6位までの入賞者が将来本学に入学した場合、ジョン・ニッセル杯奨学金が支給され、順位に応じて修業年限（4年間※）の授業料相当額の全額または一部が減免されます。
※継続審査あり。

本大会では英語の正確さよりも内容や「相手に伝えたい！」という気持ちの強さ、自分の想いや考えを英語で表現し、聞き手に届ける力があるかどうかを重視しています。

本年度のテーマは "Coexistence for a Sustainable Future" です。

本選日・場所：2022年11月19日（土）
上智大学 四谷キャンパス
今後のスケジュール
① 1次審査応募期限：2022年8月24日（水）消印有効
② 1次審査発表：2022年10月上旬
※新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては、11月の本選の形式をオンラインに変更する場合があります。
問い合わせ先（メールにてお問い合わせください）
上智大学全国高校生英語弁論大会係　nissel-cup@sophia.ac.jp
募集要項と参加申し込み用紙はジョン・ニッセル杯ウェブサイトからダウンロードできます
http://www.sophia-cler.jp/hs-students/nissel-cup.html